



事後対応型の管理から リアルタイム型の管理へ

最新のモデル管理が少人数のIT部門の日常業務にもたらすメリット



パッチ適用が遅い パッチ



盲点 可視性



修正が手作業 修復



中断 ユーザエクスペリエンス



トラブル対応の 増加 拡張性

事後対応型管理

アップデートは
ユーザとチェックイン待ち

- ・ 延期が一般的
- ・ 手作業でのフォローアップが必須

現在ではなく前回の
チェックイン時の情報

- ・ デバイス状態が古い
- ・ 問題の発覚が遅い

IT部門が調査して繰り返し対応

- ・ ワークフローを反復実行
- ・ デバイスを一つずつフォローアップ

強制アップデートで作業が中断

- ・ ユーザは延期または反発
- ・ 作業中断のリスク

デバイスの規模に応じて
負担が増加

- ・ デバイスが増えるほどチェックインが増加
- ・ 追跡対象の不具合が増加

リアルタイム型管理



デバイスが自動で
アップデートを適用

- ・ IT部門の操作なしで再試行
- ・ 手作業なし



全デバイスを
リアルタイムに可視化

- ・ 問題発見が早い
- ・ 手作業なしで可視化



自己修復ワークフロー

- ・ デバイスが自律的に是正
- ・ ほとんどの問題はIT部門が気づかないうちに解決



アップデートを
バックグラウンドで実行

- ・ タイミングは業務時間外
- ・ 事前にユーザへ通知



デバイスが増えてもIT部門の
手間は減少

- ・ サーバ主導ではなくデバイス主導
- ・ 規模が拡大しても手作業は増えない

事後対応型からリアルタイム型に転換すると、デバイス自体で対応可能な作業はデバイスにまかせて、IT部門の時間を確保できます。